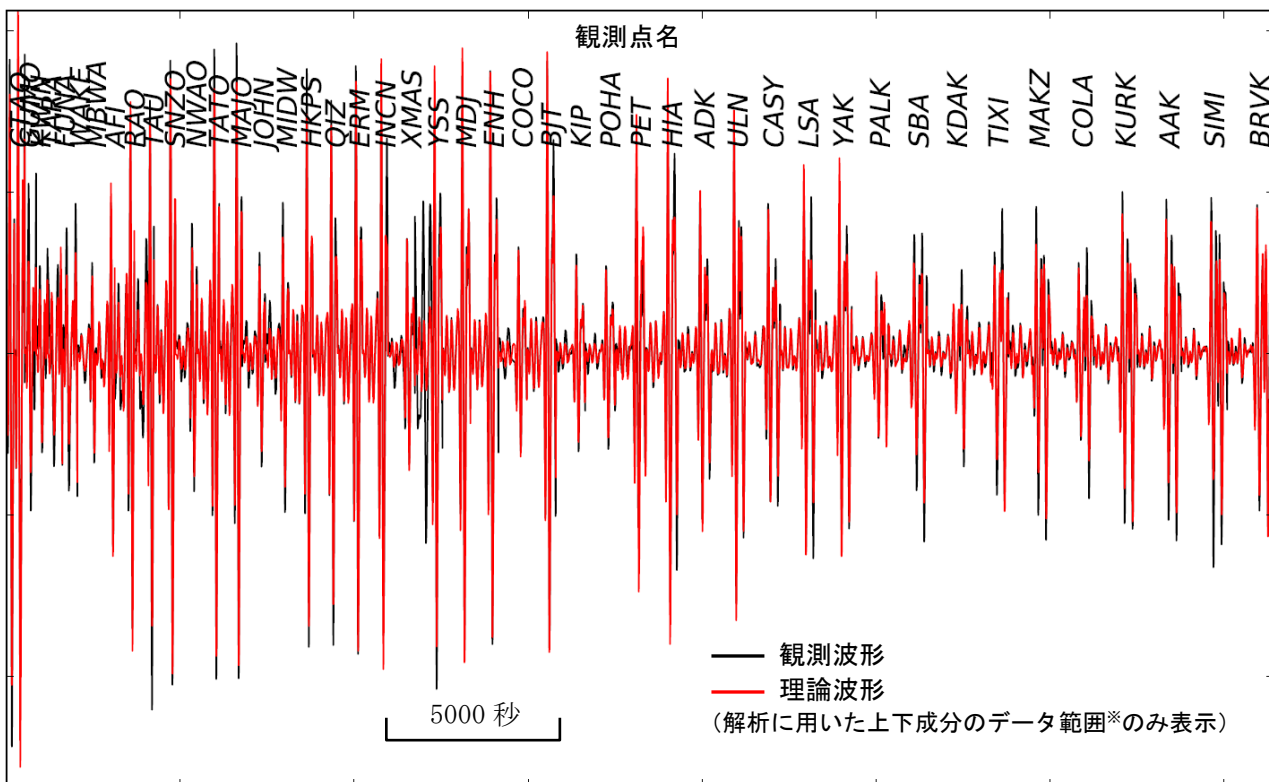


(W-phase を用いた発震機構解析)

W-phase の解析では、震央距離 $10^{\circ} \sim 90^{\circ}$ までの 45 観測点の上下成分、36 観測点の水平成分を用い、100~300 秒のフィルターを使用した。

注) W-phase とは P 波から S 波付近までの長周期の実体波を指す。

Mw	M ₀	断層面解 1 (走向／傾斜／すべり角)	断層面解 2 (走向／傾斜／すべり角)
7.0	3.66×10 ¹⁹ Nm	243.1° / 25.2° / 87.5°	65.9° / 64.8° / 91.2°



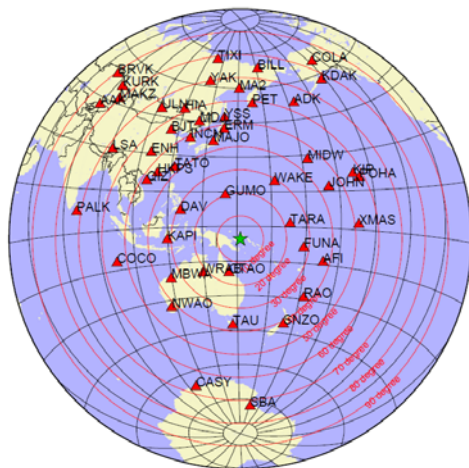
※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、
各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

(W-phase に関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, *Geophys. J. Int.*, **175**, 222-238.

解析データには、米国大学間地震学研究連合（IRIS）のデータ管理センター（DMC）より取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士及び Rivera 博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。



解析に使用した観測点配置

気象庁作成